

再開への軌跡Ⅱ

ゴールデンウィークが明け、緊急事態宣言の延長が決まった頃から、本校では学習の進捗の遅れを、どのように埋めるのかが重要な課題になりました。緊急事態宣言が延長されるなか、感染者ゼロの岩手県や、青森県、鳥取県で休校が解除されました。さらに、愛媛県、鹿児島県、秋田県、長崎県、大分県でも11日から県立高校の休校が解除され、授業が開始されました。地域によって学校再開の時期が異なることは、学習の地域間格差に繋がる可能性があります。特に、3年次生にとっては進路で多くの生徒が大学・短大、医療系専門学校に進学しようとしています。高校受検と異なり、首都圏の大学、専門学校に進学する場合、首都圏のみならず、日本全国から進学してきますので、学校再開の遅れは学習進捗の遅れを意味し、進学にも大きな影を落とすことになります。

文部科学省の調査では、休校中の公立小中高校で行われた学習指導は、主に「教科書や



プリントなど紙の教材を活用」、「デジタル教科書、教材」、「NHK・Eテレなどのテレビ放送」、「教員が授業を録画して配信」などが挙げられています。しかしながらすべての学校が実施できたのは紙ベースの教材活用であり、ICTを活用した学習指導を実施した学校は2～3割に過ぎず、特に教員の授業を配信したものは1割程度という結果でした。

本校では、スタディサプリの使用や授業の動画配信を行っています。普段の対面の授業は双方向によって学習効果が高まるのですが、休校中は学校からの課題だけでは、なかなか学力の向上は分かりにくく、不安になる生徒が少なからずいることは理解できます。

本校の生徒が他県の生徒やオンライン学習を行っていた生徒と、学習差がついているのではないかという不安をいかに払拭しなくてはいけないのか、校長として課題解決に苦心しているところです。幸いにも、本校では新学期からの課題に対して評価対象とすることを明示し、再開後にも課題テストを実施しますので、ほとんどの生徒は課題を熟して提出しました。また、スタディサプリを用いて課題を出したことも、スタディサプリを、いままでもより有効に活用できるようになりました。

休校が長く続き、規則正しい生活が送れていないという声があり、5月中旬より再開後の学校生活に戻れるように Classroom を用いて担任、副担任よりホームルームを開始しました。現在、登校日には学校でホームルームを行い、登校日でない日には Classroom を用いてホームルームを行っています。特に、1年次生は本校に入学しましたが、担任、副担任、クラスメートが分からないと、学校やクラスに馴染めないと考え、Classroom を有効に活用することにしました。



また、休校期間中に心身や身体に対する相談には、スクールカウンセラーや養護教諭、担任は電話相談や個別登校の時に対応をしました。さらに、進路指導に関しては担任やキャリアアドバイザーで対応し、特に3年次生が個別登校して相談を受けていました。

学校再開が不透明な中、本校では6月の再開を目指して学習進度の遅れをどのように埋めるかについての検討がなされました。学校自作の動画配信、スタディサプリを使用して時間の効率化を図る、スタ

ディサプリを使用して反転学習を行う、板書箇所をプリント配付する、プリント学習、演習問題は宿題とする等、先生方から様々な提案がなされました。これらの方策を取り入れながら、本校は学習進度の遅れを少しでも取り戻します。

学校が再開された場合、体育や家庭科、芸術、情報など実技系の教科では、どのような授業を行えばよいのか、ということが課題になりました。教育委員会より指導の方法等が示されましたが、体育の場合、当初は教授できる単元が限られることとなります。実際にマスクを外し、ソーシャルディスタンスを取りながら体育を行わなくてはならず、さらに更衣をどのようにすればよいのかという課題もあります。



*課題提出に来た生徒

学校が再開された時、清掃は誰が行うのかという課題もあります。通常の学校生活を送れるようになるまで、生徒の部活動、委員会活動は制限されます。それと同様に清掃活動



*水飲み場を清掃する教員

も制限されます。それは新型コロナウイルスの感染防止のためにも、現段階では生徒に行わせることはできません。確かに、欧米から日本の給食や清掃について非常に高く評価されています。新型コロナウイルスが収束すれば、また生徒による清掃活動が行われると思いますが、いまは教職員で行うしかありません。しかし、教職員は授業準備等に追われ時間がないこと、清掃箇所の多さなどによる人手不足、さらに、教職員が

感染した場合、生徒に感染させてしまう可能性等の理由から、清掃業者に依頼しなくては

いけない部分もあると考えています。
5月27日、6月1日より学校が再開することが決まりました。この間、3ヶ月にも及ぶ休校期間、校長はじめ教職員総てが初めての経験であり、どのように乗り切ればよいのか、まだまだ暗中模索、試行錯誤の状態です。ですが一日でも早く通常の学校に戻れるよう、教職員一丸となって頑張っていく次第です。生徒の皆さん、共に歩みましょう。